

司会の言葉

早川 弘一*

本日の特別講演は「循環器疾患とカオス」という内容です。個人的な話で恐縮ですが、1987年に Penguin Books から James Glick (科学史の著者として有名) が「Chaos」を出版し、欧米ではたちまちベストセラーになったとの話を聞いたことがあります。ベストセラーになったのは、chaos : 混沌～無秩序と思われる現象は世の中にたくさん存在するが、数学的に解析すると何らかの法則性が見出せるのではないかというもので、新しい科学領域だとの評判を得たからというのが理由のようでした。例えばニューヨークで蝶が舞うと、北京で嵐になるといった気象学のカオス、その他天文学、生物学のカオスについて Gleick が、当時のカオス学の最先端の研究者にインタビューしてその研究内容を素人に分かり易く解説した本などのニューズウィーク誌の紹介を読んだ覚えがあります。ぜひ本書を読んでやろうと思っていました

が、忙しくて求める機会も読む機会がなかったところ、1991年に新潮社から上田皖亮監修、大貫昌子訳の日本版が出ました。そこで早速手に入れて読み始めたのですが、水道の蛇口を閉めたあとポツポツと水が落ちる現象を調べるとランダムのようなだけでも数学的に分析すると法則性があるとか、フラクタルとか、面白い話が一杯で、とうとう徹夜して読みました。それからしばらくして、日本の医学にもカオスとその理論を応用した研究が少しずつ始まったように思います。心房細動、心室細動、心拍のゆらぎ、などの本質はカオスに属するのではないのでしょうか。

本日の講演者、大坂君はかなり前から心拍のゆらぎや T wave alternans などカオス的な現象を数学的に解析する仕事をしてきた研究者です。彼の講演を楽しんで聞きたいと思います。

*日本医科大学第一内科